

結節性硬化症診療連携を開始しました。

【結節性硬化症とは】

結節性硬化症（TSC：tuberous sclerosis complex）は、脳、腎臓、肺、皮膚、心臓など全身のさまざまな場所に腫瘍をはじめとする症状が出る病気です。症状としては、てんかん発作や、言葉や読み書きなどの発達に遅れが出る（発達障害）、人とうまくコミュニケーションが取れなくなる（自閉症）、頭痛、吐き気、お腹の痛み、尿に血が混じる、血圧が高くなる、息苦しい、脈が乱れる、歯の表面にくぼみができる、などがあらわれます。これらの症状がおきるかどうかや、症状の程度は年齢によっても異なりますし、個人差も大きいのが特徴です。

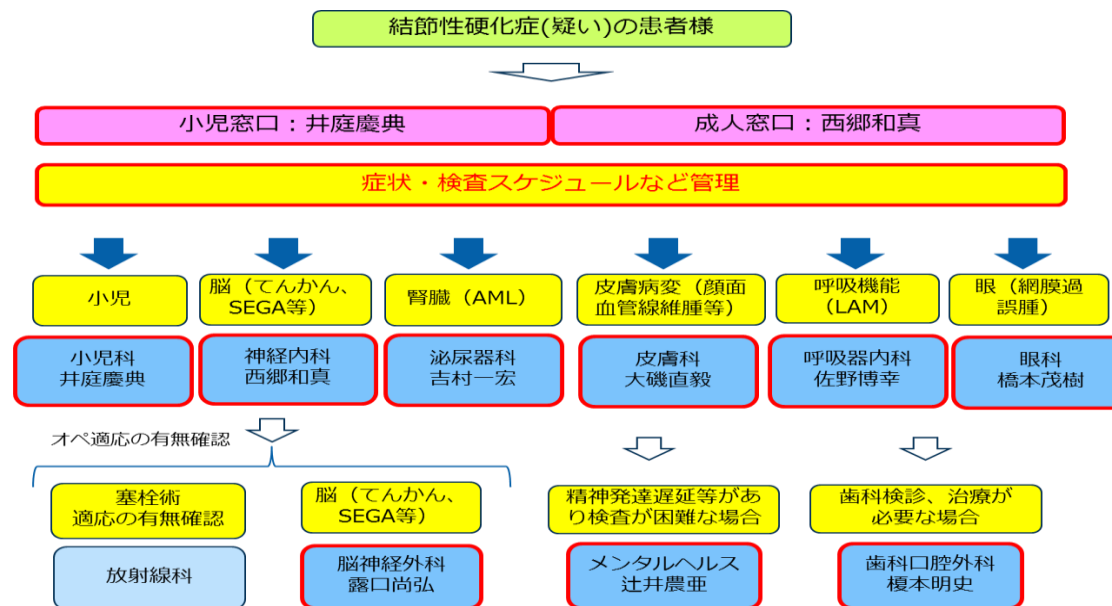
「詳しくはコチラ→」 <http://www.tsc-info.jp/index.html>

【診療連携とは】

結節性硬化症と診断されたからといって必ず病状があらわれるとは限りません。しかし、治療が必要な場合には関係診療科で治療方針を決めていく必要があります。当院では平成30年より結節性硬化症の院内診療連携を開始しました。関係診療科（小児科・神経内科・泌尿器科・脳神経外科・メンタルヘルス科・皮膚科・呼吸器内科・眼科・歯科口腔外科）と連携しながら総合的に治療にあたります。

【結節性硬化症診療連携チーム】

診療科	医師
泌尿器科	吉村一宏
脳神経外科	露口尚弘
神経内科	西郷和真
メンタルヘルス科	辻井農亜
小児科	井庭慶典
皮膚科	大磯直毅
呼吸器内科	佐野博幸
歯科口腔外科	榎本明史
眼科	橋本茂樹



【予約方法について】

受診を希望される方は、添付の診察予約申込書（FAX用）を用いて現在通院中の医療機関から地域連携課へご予約下さい。（「[診察予約申込書](#)」に必要事項をご記入のうえ、地域連携課までFAXをお願い致します。）